

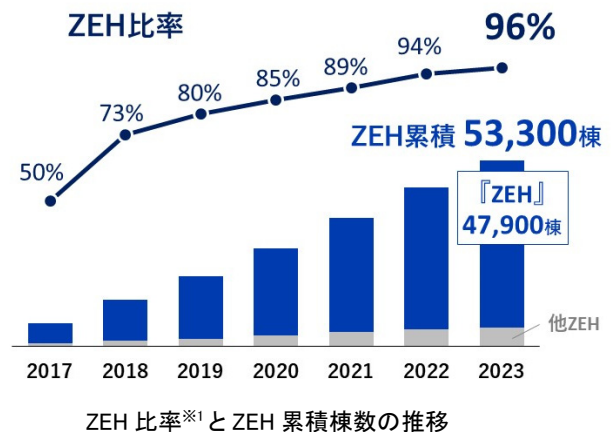
2023 年度新築戸建住宅の ZEH 比率 96%^{※1} 当社過去最高を 7 年連続更新

- ZEH 区分の中でエネルギー削減率が最高ランクの『ZEH』比率が 90%^{※1}に続伸
- 蓄電池搭載のエネルギー自給自足型住宅^{※2}は累計で 6.8 万棟^{※3}を突破

2024 年 4 月 23 日
積水化学工業株式会社

積水化学工業株式会社 住宅カンパニー（プレジデント：吉田匡秀）では、2023 年度新築戸建住宅「セキスイハイム」の ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）比率^{※1}が、対前年 2 ポイント増の 96%（北海道除く）となり、当社過去最高水準を 7 年連続で更新しました。

当社は、2013 年に ZEH 標準対応住宅「ミライクラス」を発売し、更に 2024 年 3 月には、ZEH 水準（断熱等級 5 相当）を上回る断熱等級 6 仕様^{※4}と蓄電池を標準搭載したパッケージ「ミライクラス+（プラス）」を発売するなど、2050 年のカーボンニュートラル社会の実現のために国が後押しする ZEH の普及を積極的に推進しています。その結果、ZEH の累計棟数は 5.3 万棟（北海道含む）を突破するに至りました。今後も ZEH 推進を軸とした商品開発と提案力強化により、脱炭素社会実現への貢献を加速してまいります。



当社の ZEH 対応状況の特長

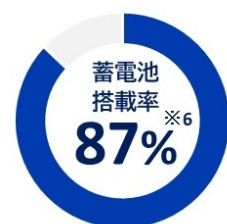
1. ZEH 区分の中でエネルギー削減率が最高ランクの『ZEH』比率が 90%^{※1}に続伸

2023 年 4 月に大容量の太陽光発電システム（PV）を搭載できる新屋根システム「e-Hat（イーハット）」を開発するなど、大容量 PV による再エネ活用を推進した結果、ZEH の定義区分においてエネルギー削減率が最も大きい『ZEH』（カギ括弧付き ZEH）の比率が 90%^{※1}と 7 年連続で伸長し、累積で 4.7 万棟を超えました。脱炭素社会の実現に向けて、より貢献度の高い住まいの提供を推進しています。



2. 蓄電池搭載のエネルギー自給自足型住宅^{※2}は累計で 6.8 万棟^{※3}を突破

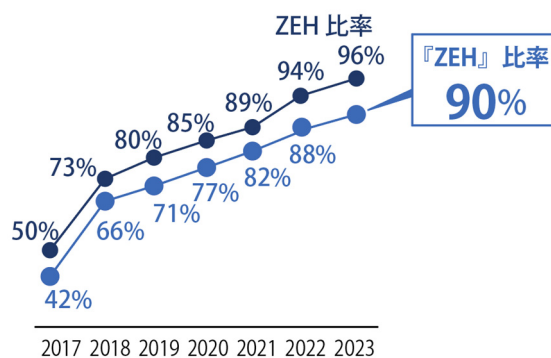
ZEH に蓄電池や独自のエネルギー管理システム（HEMS）「スマートハイムナビ」を搭載した「エネルギー自給自足型住宅^{※2}」の普及に積極的に取り組み、2023 年 10 月には初めて多雪エリア^{※5}向けの蓄電池運転モードを導入。その結果、2023 年度の新築戸建住宅での蓄電池採用率は 87%^{※6}を達成、累計で 6.8 万棟^{※3}を突破しました。自然災害やエネルギー価格高騰に対応する住まいを普及拡大しています。



ZEH 区分の中でエネルギー削減率が最高ランクの『ZEH』比率が 90%^{※1} に続伸

国が定める ZEH の定義には、『ZEH』（カギ括弧付き ZEH）、Nearly ZEH、ZEH Oriented の 3 種類があり、このうち『ZEH』は、PV 等の再生可能エネルギーを含んだ基準一次エネルギー消費量からの削減が 100%以上と定められています。

基準一次エネルギー消費量からの削減が 75%以上と定められている Nearly ZEH と比較し、『ZEH』は CO₂ 排出量が年間約 0.7 トン/戸^{※7} (杉の木換算で約 50 本以上^{※7}) も少ないことから、当社では脱炭素社会の実現により貢献できる『ZEH』の普及に注力しています。



ZEH 内の区分		基準一次エネルギー消費量からの削減		当社実績	
		再エネ等を含む	再エネ等を除く	戸建全体 ^{※1} (注文+建売)	うち建売 ^{※8}
『ZEH』 (カギ括弧付きゼッチ)	年間の一次エネルギー収支 ^{※9} が 正味ゼロまたはマイナスの住宅	100%以上	20%以上	90%	96%
Nearly ZEH (ニアリー・ゼッチ)	年間の一次エネルギー収支 ^{※9} を ゼロに近づけた住宅	75%以上	20%以上	4%	2%
ZEH Oriented (ゼッチ・オリエンテッド)	都市狭小地、多雪地域に建設され ZEH を指向した住宅	— (再エネ不要)	20%以上	2%	1%
ZEH 合計				96%	99%

2023 年 4 月に、PV 搭載効率を従来より約 10%向上^{※10}させた新屋根システム「e-Hat」を開発するなど、大容量 PV による再エネ活用を推進。2024 年 1 月からは、省エネ地域区分 5~7 地域の平屋・2 階建ての戸建全商品において、ZEH 水準 (断熱等級 5 相当) を上回る断熱等級 6 相当の断熱性能 (外皮平均熱貫流率 (UA 値) 0.46 以下) を標準化^{※4}し、更に同 3 月には断熱等級 6 仕様^{※4}と蓄電池を標準搭載して国の ZEH 支援事業における ZEH+水準を上回る住性能を有する商品パッケージ「ミライクラス+」を発売。環境貢献度のさらに高い住まいの提案を加速しています。



大容量 PV 搭載のステンレス折版屋根「e-Hat」^{※11}

また、このような住まいを面で広げるため、2021 年より全邸 ZEH 仕様とした「戸建スマート & レジリエンスまちづくり」を展開。2022 年 10 月には、このプロジェクトを定着・加速させるため、最高ランク『ZEH』を標準^{※12}とする高付加価値分譲地ブランド「ユナイテッドハイムパーク」を立ち上げ、建売住宅 (分譲) での ZEH 率向上にも注力してきました。このような取り組みの結果、2023 年度の建売住宅 (分譲) における ZEH 率は 2 年連続で 99%^{※8} を達成しました。



『ZEH』標準^{※12}で、環境にやさしく電力不安の少ない暮らしを実現する「ユナイテッドハイムパーク」^{※11}

蓄電池搭載のエネルギー自給自足型住宅^{※2}は累計で6.8万棟^{※3}を突破

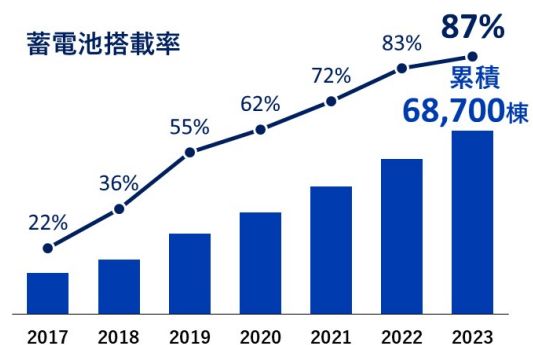
地球温暖化に加え、エネルギー供給不足や自然災害による停電リスク、電気価格高騰へ対応するため、住宅の省エネ化や再エネ活用は喫緊の課題となっています。また、FIT 制度の再エネ買取単価は低下傾向にあり、発電した電気を電力会社に売電する経済メリットが鈍化している側面からも、発電した電気を蓄電池に貯めて自宅で有効利用する「エネルギー自給自足型^{※2}の暮らし」がますます重要になっています。

当社では 2020 年より、大容量 PV と大容量蓄電池を搭載し高いエネルギー自給自足率を実現した「GREENMODEL」シリーズを展開しています。2023 年 10 月には、同シリーズ初の多雪エリア^{※5} 向け商品「スマートパワーステーション N-FX GREENMODEL-S」を発売。積雪期間に PV 発電量が不足し、豪雪などによる停電時に蓄電池が十分に充電されない多雪エリアでの課題を、季節に応じて蓄電池の運転モードを自動で切り替える HEMS「スマートハイムナビ」の新機能で解消。冬季は深夜電力を蓄電池に貯め突然の停電に備え、夏季は PV 電力を優先して蓄電池に充電します。

このように、多雪エリアを含めたより多くのお客様に「できるだけ電気を買わない、地球環境に優しい暮らし」を普及する取り組みが功を奏し、2023 年度の新築戸建住宅での蓄電池採用率は 87%^{※6} を突破、累計で 6.8 万棟^{※3} に達しました。また、PV 搭載住宅は、累計で 24.6 万棟^{※13} に達しました。



「GREENMODEL」初の多雪エリア対応商品^{※11}



蓄電池搭載率および累計棟数の推移^{※3, 6}

- ※1 ZEH 比率、『ZEH』比率は、ZEH ビルダーの報告方法（注文住宅と建売住宅、それぞれの『ZEH』、Nearly ZEH、ZEH Oriented における計算結果の小数点以下を切り上げたうえで合計した計算方法）に基づいて集計した実績です。ZEH には『ZEH』のほか、Nearly ZEH、ZEH Oriented を含みます。
- ※2 すべての電力を賄えるわけではありません。電力会社から電力を購入する必要があります。
- ※3 2024 年 3 月末現在の新築とリフォーム含む蓄電池（VtoH 含む）の出荷棟数（当社調べ）
- ※4 プランや一部採用メニュー等の条件によっては、断熱等級 6 に適合しない場合があります。
- ※5 建築基準法の規定により定められた垂直積雪量が 100cm 以上 200cm 未満の市町村。
- ※6 2023 年 4 月から 2024 年 3 月における蓄電池（VtoH 含む）の契約ベース搭載率（当社調べ）
- ※7 エネルギー削減量は国土交通省のエネルギー消費性能計算プログラム、杉の木換算は関東森林管理局「森林の二酸化炭素吸収力」より 14kg-CO₂/本・年として当社試算。
- ※8 2023 年 4 月から 2024 年 3 月における建売住宅（据付ベース）の母数に対する ZEH 棟数の割合（当社調べ）
- ※9 対象：暖冷房、換気、給湯、照明（家電・調理は除く）
- ※10 モデルプラン（延床面積 134.1 m²）での比較。
- ※11 画像はイメージであり、実際の仕様と一部異なる場合があります。
- ※12 北海道エリアのみ Nearly ZEH、ZEH Oriented を含みます。
- ※13 2024 年 3 月末現在の新築とリフォーム含む PV の出荷棟数（当社調べ）

【参照】

国が目指す ZEH 水準を上回る断熱等級 6 仕様を一般地の戸建住宅で標準化
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20231219.html>

ZEH+ を上回る新たな未来基準の家『ミライクラス+(プラス)』パッケージを販売開始
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20240314.html>

都市部の分譲地向け商け商品『スマートパワーステーション FX まちなみデザインパッケージ』を発売
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20230529.html>

セキスイハイムの最新「スマート&レジリエンス」住宅が当社既存技術を超え CO₂排出量マイナス0.8トン/年となることを実証
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20230926.html>

スマート&レジリエンス「際立ち」の新たな分譲地ブランド『ユナイテッドハイムパーク』誕生
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20221013.html>

多雪エリア商品『スマートパワーステーション N-FX GREENMODEL-S』発売でさらなる環境貢献を推進
<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20231012.html>

＜この件に関するお問い合わせは下記までお願いします＞

積水化学工業株式会社 〒105-8566 東京都港区虎ノ門 2-10-4 オークラプレステージタワー

■住宅カンパニー 新築事業統括部 商品企画部 田中、太田 TEL : 03-6748-6408

■住宅カンパニー 渉外・購買部 広報・渉外部 馬場、本間 TEL : 03-6748-6418

E-mail : heim-news@sekisui.com